

【循環経済関連資料 翻訳7】

夏光：人間と自然の調和が取れた文明発展の道路を切り開こう

我が国は多くの人口を有する発展途上国であるため、如何にして持続可能な発展を実現させるかは、中華民族や全世界の未来に関わる重大な戦略的問題である。江沢民主席は中国共産党設立80周年記念大会で、「人間と自然の間の調和関係を促進し、生産発展・生活富裕・生態良好の文明発展道路（3生文明道路を歩む）を切り開くことに努力せよ」と指摘していた。これは我が国における持続可能な発展事業にとって重要な意義を持っている。

1. 人間と自然の調和を促進することは、我が国における社会主義現代化事業の法則に対する認識の新しい発展である

人間と自然が調和した文明発展道路を切り開くことを、我が国における現在化事業の目標と方向にすることは、非常に深い意義を持っている。我が国は歴史上長期にわたり、生産力が発達していなかった。それゆえ、内患や外国の侮辱をしばしば受けた。従って、我が国の人民は、独立自強や民族復興の強い願望を持ち、ししとして福国強民の道を探ってきた。このような歴史的背景の下、中国共産党は全国人民をリードし、困難を極めた探求を続けてきた。50年が経過し、やがて特色ある中国の社会主義の発展道路を切り開いた。この探求の過程では、相対的に資源が乏しい我が国にとって、如何に人間と自然の関係を正確に処理し、我が国の資源や環境条件の下で膨大な人口の生存と発展を維持するかが、疑いもなく重大な戦略的・全体的な問題であった。我われはこの実践のプロセスの中で多くの紆余曲折を経験してきた。江沢民同志は中国共産党成立80周年記念大会で以下のような重要談話を発表した。「人間と自然の間の調和関係を促進すべく、人々を優美な生態環境のなかで仕事と生活をさせる。持続可能な発展戦略を堅持し、経済発展と人口・資源・環境の関係を正確に処理し、生態環境の改善や生活環境の美化を図り、公共施設と社会福祉施設を改善する。生産発展・生活富裕・生態良好の文明発展道路を切り開くことに努めなくてはならない」。これは我

が党が長期の歴史経験や教訓を総括したうえに得られた結論である。過去における我が国の指導思想の中の誤りへの反省でもある。この談話は、社会主義現代化事業において人間と自然の関係を軽視することができないこと、そして生産力を発展させることは最も喫緊である社会主義の初級段階においても、人間と自然の調和を達成させることをすべての行動の基本理念の1つとしなければならないことを意味している。

我われの目標は単なる物質的な成果を挙げるのではなく、「3生文明道路」を歩むことである。この深い意義をよく理解することは、人々の脳の中に存在する「初級段階はイコール経済発展」の片面的な発展観の見直しにとって大いに役立つだろう。

ここ30数年の環境保全活動の実践、特に近年における持続可能な発展戦略を実施した結果を見ると、人間と自然の関係を正確に処理し、資源をよく保護することによって、社会経済の健康的・持続的発展が保証され、人民に多くの実益をもたらした。10年近い間、特に「九・五」期間中の努力により、国民経済の高成長を維持しながら、環境汚染の悪化に歯止めをかけることができた。一部の都市や地域の環境質が改善された。すでに国の環境保全モデル都市に認定された20数都市では、都市部のインフラ整備、美化活動などを通じて、環境と経済の協調的な発展を遂げた。人民はこれらの都市での生活、仕事に満足し、その成果を肯定している。

2. 文明発展道路を切り開くことに努め、人間と自然の調和を促進する

人間社会と自然の調和を実現させることは我われの長期的な理想である。「3生文明発展道路」を切り開くことはこの理想を達成させる正しい道である。この極めて困難な任務に直面し、我われは以下の幾つかの仕事を良くしなければならない。

2.1 「経済建設を中心とする」と「持続可能な発展」

2者の関係を正確に処理し、経済と環境の「ウィン・ウィン」効果をもたらす

持続可能な発展戦略の目標は経済発展と生態環境の両方を良い発展の軌道に乗せることである。我が国の「九・五」国民経済と社会発展計画の中で、すでに持続可能な発展を国家戦略と定めた。これは人間と自然の調和した関係を築く要求を国家の発展計画の中に組み入れる望ましい発端である。我われは思想上から「経済発展を中心とする」と「持続可能な発展」の関係を正確に認識すべき、そして3つの協調を実現させなければならない。①経済発展と自然資源の利用の調和。肝要なのは経済発展の規模による自然資源への負荷を環境容量の範囲内に抑えること。②経済発展と環境保全の調和。重要なのは、経済発展と環境保全の相互促進作用を認識し、経済発展の速度を生態環境のバランスの回復速度以内に抑制することである。③経済発展と人口問題の関係を協調すべきである。要としては、生態都市、緑色コミュニティ、エコスクール、循環産業などの活動を通じて、「大量生産・大量消費・大量廃棄」の伝統的な観念を転換し、生産と消費の持続性を実現させ、地球環境への負荷を最低限まで減らし、同時に資源の節約を最大限にする。資源環境が退化しない、悪化しないばかりでなく、資源環境を改善させる前提の下に、経済成長を促進し、経済と環境の「ウィン・ウィン」を実現する。

2.2 経済構造を調整し、生活方式を改善し、循環経済社会を構築する

経済社会の発展を人口・資源・環境問題と結びつけ、一括的に計画し、総合的に協調する。経済発展のプロセスの中で、経済の力を借り、人口・資源・環境問題を解決へ導く。そのため、経済構造の戦略的な調整を高く重視しなければならない。工業分野では、重点的に資源消耗型、環境負荷型産業を技術革新やクリーナー・プロダクションの推進を通じて、資源が効率的に利用できる循環型・クリーンな産業に改造する。製造業においては長期にわたり応用した「設計—生産—消費—廃棄」のような生産方式を変えなければならない。新しい「回収—再利用—設計—生産」のような循環経済の観念を樹立させなければならない。断

固として産業政策や環境法規の要求を満たさない企業を閉鎖・停業させ、すでに達成した「1つのコントロール、2つの基準クリア」という成果を強化し、汚染の逆戻りをあくまで抑えとめる。農業分野では、積極的にエコ農業、有機農業など持続可能な農業生産方式を推進し、農業や化学肥料への依存を減らし、農業による広域汚染を緩和する。生態環境の脆弱な地域においては、今までのような環境負荷型資源開発方式を根本的に調整し、着実に耕地や放牧地を草原や森林に戻す措置を実行し、人類活動と生態環境を調和させる。「全国生態環境保護綱要」を全面的に着実に執行し、生態環境の保全と建設に努め、生態環境の悪化傾向を抑制し、自然災害を減らし、生態システムの良い循環を形成させ、人民をきれいな山や川、優美な環境の中で暮らさせる。

2.3 公共施設や社会福祉施設の建設を強化し、生態環境を改善し、生活環境を美化する

個人の生活の豊かさと社会の発展の関係を正しく認識し、環境インフラ整備に力を入れ、人民の生活レベルを向上させる。生活レベルの向上は個人や家庭内部の物質的な生活条件の改善ばかりでなく、公共環境質の改善にも反映されている。現在我が国における公共施設特に環境インフラ施設の建設は、小康レベルでの生活の要求にはまだ程遠い段階にある。「家の中は清潔で、外は汚い」のような現象は随所に存在している。これは、公共環境施設の建設と公共サービス・レベルの引き上げが今後の社会文明発展の重点となることを現している。これから、制度改革や政策提言を通じ、市場メカニズムを活用し、公共施設や社会福祉施設の建設と管理に大いに力を入れるべきである。そして、都市部における污水处理場やゴミ処分場などの環境インフラ施設の建設事業を社会の発展や生活レベルの向上に歩調をあわせさせるべきである。

2.4 人と自然の調和の達成を促進する保障制度を打ち立てる

人と自然の調和を促進するために、保障制度を打ち立て、それを改善しなければならない。この保障制度の核心は、環境と経済の総合的政策決定ができる組織運営システムを打ち立てることである。このメカニズ

ムの有効機能により、各レベルの経済と社会発展政策決定の中で、省エネと環境保全を経済社会の発展と同レベルの重要位置におかなければならない。そして、これをもって発展の質、発展のレベル、発展プロセスの中の客観基準などを判断し、政策決定の科学化の程度を高める。そのゆえ、ニーズに応じて、政府部門、社会団体、専門家などが参加する委員会などを設立し、政策決定をサポートする。これに関しては、諸外国の多くのやり方が研究と参考に値する。例えば、カナダ

の「環境と経済の円卓会議」は、連邦政府首相が直接にメンバーを任命する高級コンサルティング機構である。政府や社会各界からのメンバーで構成され、常に環境と経済に関する重大問題について、直接に首相に提案する。これにより、大手会社や大型プロジェクトによるマイナスの環境影響をコントロールすることができ、大きな役割を果たしたといえる。要するに、人と自然の調和を促進するためには、一定の制度形式を通じて保障しなければならない。